

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成27年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
27-2	多様な観測データの活用による道路交通施策評価のためのモデル開発	山梨大学 教授 佐々木 邦明	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>多様な観測データが利用可能になってきたことを活用し、観測データを援用した道路や空間の状態変化を高精度に予測できる交通シミュレーションの開発を目的としている。状態変化とは、短期の経路別の需要変化や、ゾーンの時間帯別滞在人数、事故等のイベント検出等を指し、これらの予測結果を活用して情報提供およびマネジメントを支援する。</p> <p>&lt;中間評価&gt;</p> <p>アクティビティモデルの改良や交通流シミュレータの実道路網への適用を実現する等、順調に研究が進んでおり、アクティビティモデルと交通流シミュレータの融合による研究成果にも期待できることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまで個別に進められてきたアクティビティモデルと交通シミュレータを統合し、かつ観測データの同化により、全体としての再現性や予測精度が向上するか、検討することが望ましい。</li> <li>2. アクティビティモデルと交通流シミュレータの統合によるメリットを、道路政策の面からさらに具体的に示すことが望ましい。</li> <li>3. 適用する場面をある程度想定した上で、モデルの妥当性を評価することが望ましい。</li> <li>4. ビッグデータにはいろいろな粒度があるため、どの粒度が必要かを検討することが望ましい。</li> </ol>			

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。